

2019年度 事業報告

フードバンクしまね「あったか元気便」

(2019年6月6日～2020年3月31日)



今年度は、準備会からの試行的活動を引き継いで6月に設立総会を開催し、多くの方々から寄せられた継続と対象範囲の拡大の声をしっかりと受け止め、正式な活動組織に再編成しました。

そして、利用世帯の増にともない食料と財源の確保に向けて積極的な取り組みを展開し、パッキング作業に必要なボランティアの確保にも力を入れ、利用世帯のもとへ多くの方々からの「あったかい心」と「気持ちのこもった食料」と「暮らしを支える情報」を届けることができました。

また、利用世帯から多くのメッセージを届けていただいたことや、初めて企画したクリスマス会での交流などによって、「あったか元気便」と利用世帯の距離が縮まり、互いに心を触れ合わせることができた年であったと思います。

関係者・関係団体はもとより、市民・行政・企業等に支えられて取り組んだ活動の細部にわたる報告は、以下の通りです。

1. 設立総会の開催

期 日	2019年6月6日(木) 15時～
会 場	JAしまね津田支店 3F
来 賓	松江市福祉部次長他 7名
参加者	約 40名
内 容	規約の承認・役員の選任・事業計画と予算 設立趣旨と経過報告・来賓祝辞
記念講演	演題：みんなで子どもを育てる地域をつくる 講師：島根大学人間科学部福祉社会コース講師 佐藤 桃子 氏

2. あったか元気便や相対的貧困の理解を広め、財源や食品を確保する活動

1) 貧困問題への理解促進

- ・「あったか元気便だより」を3回発行し、取り組み情報や利用者の声を多くの方々に提供し、活動への理解を広く呼びかけました。
- ・ホームページとフェイスブックの立ち上げに向けて準備するとともに、活動のロゴマークを作成しました。
- ・山陰ケーブルビジョンの番組「松江市長とのまちかどトーク」に関係者が出演し、活動の概要や目的を市民に語り、理解と協力を呼びかけました。
- ・企業や行政や団体等への働きかけによって、財源や食品集めへの協力をお願いしました。

連合島根執行委員会、スーパーみしまや本部、中国四国農政局島根県拠点

2) 学びの場の提供

子どもの貧困問題の学びと、「あったか元気便」の今後のあり方について議論を深める目的で、3月7日に開催予定であった「第10回地域ケア連携推進フォーラム」は、新型コロナウイルスの感染拡大により中止することになりました。

3) 財源の確保

- ・構成団体を中心とした会費収入は、予算を上回る収入財源となりました。

正会費	団体	5 団体	250,000 円
	個人	4 人	55,000 円
賛助会費	団体	12 団体	260,000 円
	個人	5 人	27,000 円

- ・多くの個人や団体から積極的にカンパ募金にご協力いただき、集まった寄付金は収入財源の5割強を占めています。

個人・団体	82 件	1,486,367 円
-------	------	-------------

- ・民間助成金を活用しながら財源確保に取り組みました。

コープ共済 地域ささえあい助成	642,304 円
-----------------	-----------

4) 食品の確保

年間の取扱総重量 約 5.5 トン

- ・米は、玄米での提供を呼びかけ、多くの市民・組合員・団体よりご提供いただきました。

単位：k g

取扱団体名		提供量(玄米での量)
松江保健生協		1150.0
生協しまね		236.0
グリーンコープ島根		40.0
古志原公民館		30.0
JA	しまね本店	264.6
	くにびき地区本部	1264.5
島根県社会福祉協議会		210.0
松江市社会福祉協議会		60.0
地域つながりセンター		206.0

なないろ食堂	45.0
明国寺	70.0
その他	30.0
合 計	3606.1

※ 玄米は、精米に換算すると概ね 90%歩留まり。
提供量には、155 キロの不良品を含んでいます。

- ・ J A しまね本店では、役職員に広く呼びかけフードドライブが取り組まれました。

夏 約 90 名の提供者より、お菓子・即席めん・缶詰など約 50 キロ
冬 約 70 名の提供者より、約 47 キロ

- ・ 生協しまねのフードドライブ

冬 58.4 キロ
春 8.1 キロ

- ・ 地域つながりセンターのフードドライブ

冬 16.7 キロ
春 22.4 キロ

- ・ 本田商店（雲南市木次町）より生パスタの寄贈を受けました。

1 袋 2 食入り 200 g を 155 袋 31 キロ

- ・ 松江市社協より災害時の非常食の提供を受けました。

夏 1 箱(150 g のレトルト 22 品) 50 箱 165 キロ
春 1 箱(150 g のレトルト 22 品) 80 箱 264 キロ
その他、お菓子の提供も受けました。

- ・ 不足する食品については、別途補填購入しました。

生協しまねより	夏 1(86 世帯)	8 品 3.5 キロ	301 キロ
	2(86 世帯)	8 品 2.2 キロ	189.2 キロ
	冬(110 世帯)	8 品 2.8 キロ	308 キロ
	春(110 世帯)	7 品 1.7 キロ	187 キロ

その他の購入品

レトルトカレー	冬春 680 g	110 世帯	2 回	149 キロ
正月用餅 10 個入り	500 g	157 袋		79 キロ

・食品提供者の新たな開拓

食品の確保量拡大を目指して、呼びかけを行いました。

9月10日 スーパーみしまや本部へ訪問

3. 食糧支援対象者の拡大と新たな教育現場への働きかけ

試行期間には、準要保護世帯だけを対象としていましたが、今年度より厚生労働省の通知により生活保護世帯も対象に加えることとなり、全ての就学援助世帯に広げることになりました。

また、古志原小学校に加え、夏休みより第四中学校、冬休みより津田小学校が対象校となり、四中校区の就学援助世帯すべてが対象世帯となりました。

(5月 8日) 大庭小学校訪問

(5月14日) 第四中学校訪問

10月29日 津田小学校訪問

10月30日 古志原小学校校長・第四中学校校長との懇談会

2月10日 城北小学校訪問

4. 地域関係者の協力体制づくりと連携・協働の取り組み

古志原地区では、公民館のフードドライブや地区民生児童委員協議会との連携を積極的に進めました。また、地区独自の組織の立ち上げに向けた会合が開催され、情報提供などにより組織化の後押しにも取り組みました。

今年度より対象となった津田地区では、地縁団体へのあいさつや情報提供をくり返しながらか協力と呼びかけました。

6月17日 津田公民館訪問

11月13日 津田公民館訪問

2月28日 津田地区民生児童委員協議会定例会へ参加

5. 箱詰め作業と届け方

1) パッキング作業

・対象校の拡大と利用世帯の増により、作業の会場を島根県総合福祉センター(いきいきプラザ)の体育室を借り上げ、年4回の作業に取り組みました。なお、使用料は減免団体の承認を受けています。

- ・関係スタッフだけによる作業は困難となり、広くパッキングボランティアを呼びかけ、関係団体の枠を超えた多様なボランティアの参加を得て取り組むことができました。また、ボランティア手書きのメッセージを同梱することも定着し、利用者への「激励」や「励まし」の言葉によって、「生きる力」を届ける取り組みにもなっています。

主なボランティアの所属は、以下の通りです。

古志原地区民児協、古志原公民館、サポートステーション松江、島根県社協、更生保護女性会、島根大学教員と家族・学生、第四中学校PTA、宍道高校職員・学生、市立福原会館、島根県健康福祉部、全農林島根県協議会、松江市立病院、新婦人の会、松江北高生徒、松江市生涯学習課、島根県社会福祉士会、松江市社協、松徳学院高校生徒など

	月 日	時 間	ボラ・スタッフ数	箱詰め数	重 量
夏 1	7月22日(月)	17:30~20:30	53 人	86 個	約 1.2 トン
2	8月19日(月)	17:30~20:30	56 人	86 個	約 1.1 トン
冬	12月20日(金)	17:30~20:30	97 人	110 個	約 1.4 トン
春	3月17日(火)	17:30~20:30	67 人	110 個	約 1.3 トン
合 計			273 人	392 個	約 5 トン

春休み企画は、コロナ感染時期になったため、ボランティア数の制限、受付での消毒、換気などに留意し行いました。

2) お届方法

ヤマト運輸(株)松江橋南支店のご協力により、年間353個の荷物を1週間以内に利用家庭に届けていただきました。

6月24日 ヤマト運輸(株)松江橋南支店訪問

また、事務局から手渡し可能なご家庭には、公民館のご協力をいただき野菜等も合わせて年間延べ39世帯にお渡ししました。

6. 利用世帯との交流

利用世帯のご家族と元気便スタッフの交流を目的として、「フードバンクお楽しみクリスマス会」を試行的に開催しました。計画段階では、参加希望がないことも想定していましたが、3世帯からの申し込みがあり予定通りの取り組みとなりました。

「届ける」「受け取る」「声を届ける」の関係の中で、だれも顔が分からない状況でしたが、お互いに心を触れ合わせることができたイベントになりました。

期 日	12月21日(土) 17:00~19:00
会 場	古志原公民館
参加者	3家族(子ども9名、大人3名) スタッフ 10名
内 容	リースづくり、クリスマスソング、ゲーム、食事会 サンタからのプレゼント、パプリカ

7. 組織の運営

1) 運営委員会

- ・第1回運営委員会 6月6日
常任運営委員の選出、事務局担当者の候補案
- ・第2回運営委員会 3月4日
2019年度の取り組み状況、2020年度の活動と財源確保

2) 常任運営委員会

- ・第1回常任運営委員会 6月6日
互選、入会承認、事務局長・事務局員の任命
- ・第2回常任運営委員会 7月9日
事務局体制と機能、常任運営委員の担当制、年間スケジュール
利用申込と財源と食品確保、食糧の支援量
- ・第3回常任運営委員会 9月26日
夏休み企画の振り返り、津田小学校への拡大、冬春休みに向けた食と
財源の確保、利用者家族との交流イベント、2020年度の構想
- ・第4回常任運営委員会 12月9日
パッキング作業、食品の確保、次年度コープ共済助成金申請に向けて、
HPの立ち上げ、ロゴマーク
- ・第5回常任運営委員会 3月4日
春休みパッキング作業に向けて、2019年度の取り組み状況
2020年度の活動と財源確保

3) 事務局会

定例会を毎月第1火曜日の午後とし、組織活動としての事務的作業や検討などを精力的に取り組みました。また、年度途中より2名の事務局員が補充となり、事務局体制も整いました。

8. その他

- ・日本生協連から審査委員1名と職員1名の訪問があり、ヒアリングを受けました。
9月 2日
- ・日本生協連の取材を受けました。
9月26日
- ・コープ共済地域ささえあい助成金の審査委員長に面会。
10月 3日

